

人 口

平成 23 年推計人口

平成 23 年 10 月 1 日現在の総人口は 184 万 8, 107 人(男 89 万 9, 880 人 女 94 万 8, 227 人)で、前年に比べ 6, 617 人(0. 36%)減少しました。

また、年齢 3 区分別にみると、年少人口(15 歳未満)が総人口に占める割合は 13. 6%、生産年齢人口(15~64 歳)割合は 61. 5%、老年人口(65 歳以上)割合は 24. 3%となっています。平成 22 年国勢調査結果と比較すると、年少人口割合、生産年齢人口割合がそれぞれ 0. 1 ポイント低下しました。一方老年人口割合は 0. 2 ポイント上昇しました。

平成 22 年国勢調査結果

平成 22 年 10 月 1 日現在の総人口は 185 万 4, 724 人(男 90 万 3, 398 人、女 95 万 1, 326 人)で前回調査の平成 17 年に比べ 12, 239 人(0. 7%)減少しました。国勢調査結果による三重県の人口の推移を見ると、昭和 30 年~35 年にわずかに減少したのを除くと、大正 9 年以降増加を続けていましたが、今回減少に転じました。総世帯数は 70 万 4, 607 世帯で、平成 17 年に比べ 2 万 9, 148 世帯(4. 3%)増加しました。

図1 人口・世帯数の推移

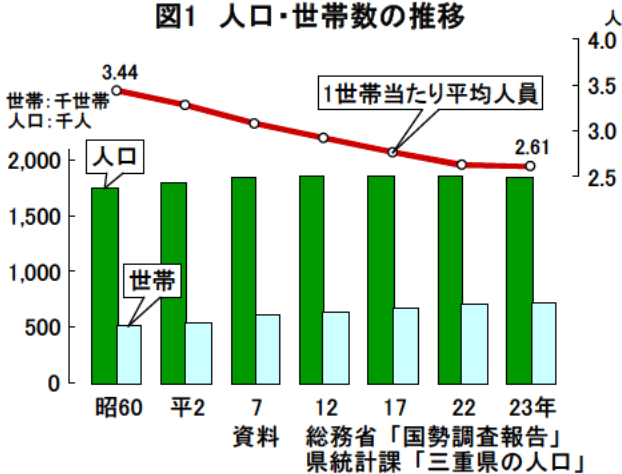


図3 年齢別、男女別構成

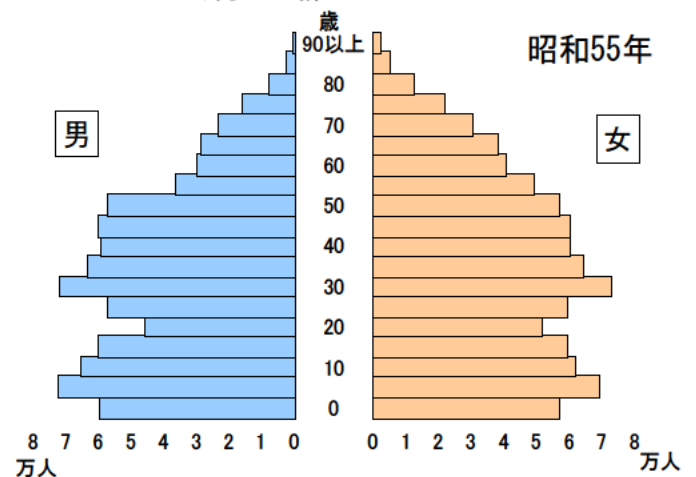
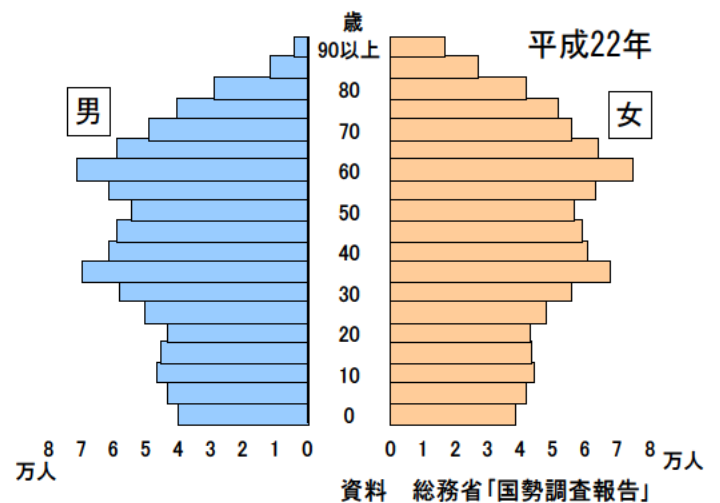
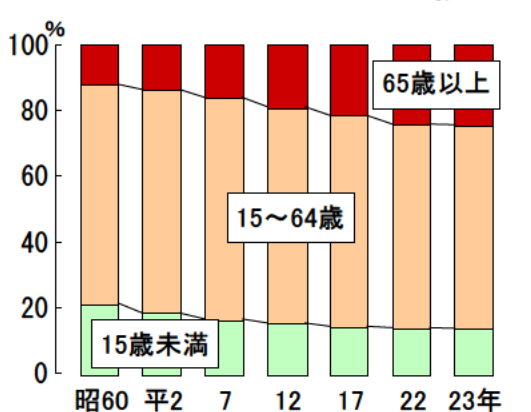


図2 年齢(3区分)別人口割合の推移

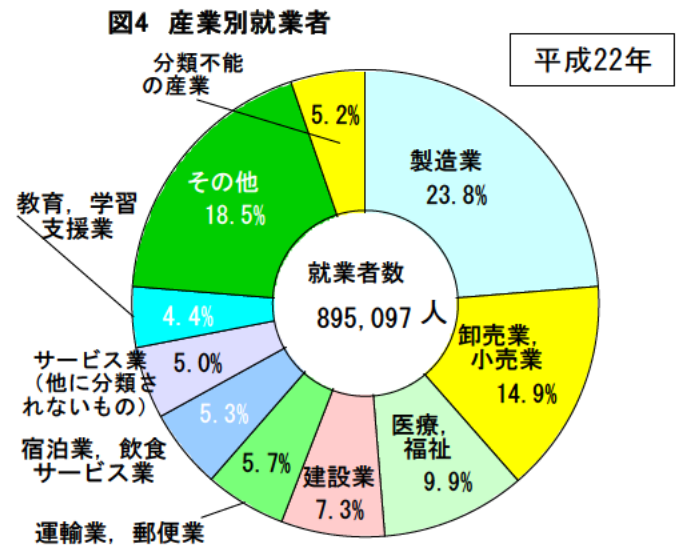


産業別就業者数

平成22年10月1日現在(国勢調査)の15歳以上の就業者は89万5,097人で、前回調査の平成17年に比べ2万7,525人減少しました。

産業大分類別にみると、最も多いのは製造業の21万2,856人(構成比23.8%)、次いで卸売業、小売業の13万3,343人(同14.9%)、医療、福祉の8万8,904人(同9.9%)と続いています。

また、産業3部門別にみると、第1次産業が3万3,016人(構成比3.7%)、第2次産業が27万8,346人(同31.1%)、第3次産業が53万6,802人(同60.0%)となっています。



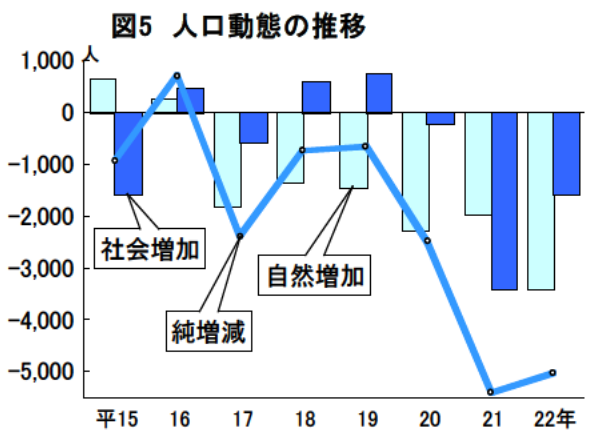
資料 総務省「国勢調査報告」

人口動態

平成22年1年間の人口動態は、出生1万5,262人、死亡1万8,691人、他都道府県からの転入2万7,619人、他都道府県への転出2万9,211人となりました。

人口動態の推移を自然増加(出生-死亡)と社会増加(県外からの転入-県外への転出)でみると、自然増加数は平成17年から22年まで6年連続減少となりました。社会増加数は平成18、19年は転入超過、20年から22年までは転出超過となりました。

純増減数(自然増加数+社会増加数)をみると、平成17年から減少傾向が続いており平成21、22年は大きく減少しています。

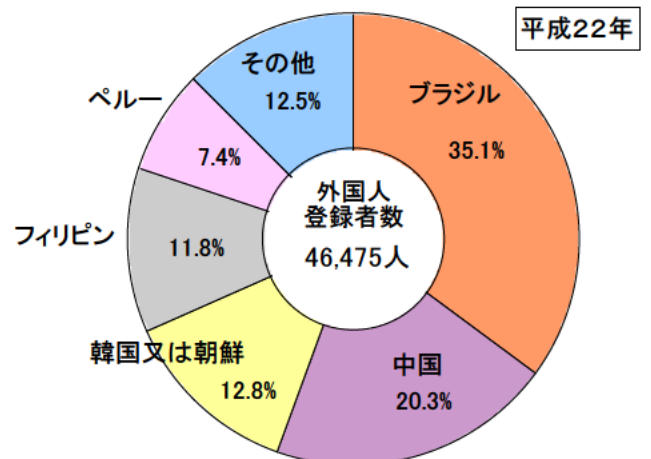


資料 総務省「住民基本台帳人口移動報告年報」厚生労働省「人口動態統計」

外国人登録者数

平成22年12月31日現在の外国人登録者数は、4万6,475人で前年と比較して2,612人(5.3%)減少しました。国別の内訳をみると、ブラジルが1万6,335人(外国人構成比35.1%)、中国が9,454人(同20.3%)、韓国又は朝鮮が5,948人(同12.8%)、フィリピンが5,479人(同11.8%)、ペルーが3,438人(同7.4%)などとなっています。

図6 外国人登録者数



資料 法務省「登録外国人統計」

土地・気象

地 勢

三重県は、日本列島のほぼ中央、太平洋側に位置し、東西約 80km、南北約 170km の南北に細長い県土を持っています。

県土は、中央を流れる榑田川に沿った中央構造線によって、大きく北側の内帯地域と南側の外帯地域に分けられます。

内帯地域は東に伊勢湾を望み、北西には養老、鈴鹿、笠置、布引等の山地・山脈が連なっています。

一方、外帯地域の東部はリアス式海岸の志摩半島から熊野灘に沿って南下、紀伊半島東部を形成し、西部には県内最高峰 1,695m の日出ヶ岳を中心に紀伊山地が形成されています。

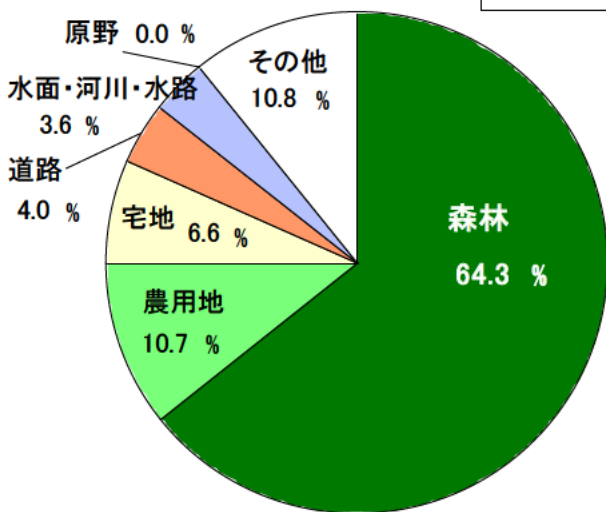
土 地

平成 23 年 10 月 1 日の総面積は 5,777.31km²で、全国 37 万 7,954.84km² (北方地域及び竹島を含む) の 1.53% を占め、面積順位では 25 番目となっています。

平成 21 年の県土の利用状況をみると、森林が総面積の 64.3% を占め、農用地 10.7%、宅地 6.6% と続いています。

図7 土地利用状況

平成21年



資料 県水資源・地域プロジェクト課

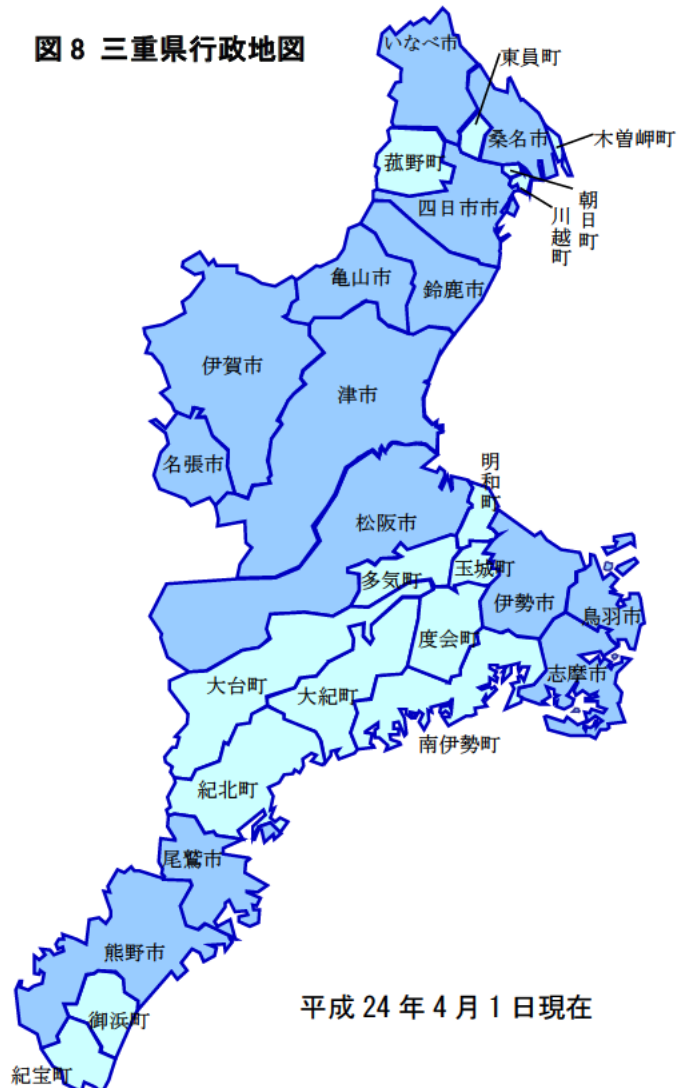
県の位置

方位	地 名	経 緯 度
東 端	鳥羽市神島町	東経 136° 59' 15"
西 端	熊野市紀和町	東経 135° 51' 12"
南 端	南牟婁郡紀宝町	北緯 33° 43' 22"
北 端	いなべ市北勢町	北緯 35° 15' 28"

行政区画

明治 22 年に三重県に市町村制が施行された当時の市町村数は 1 市 18 町 317 村の 336 市町村でしたが、その後の市町村合併により昭和 48 年に 69 市町村となりました。平成 15 年 11 月までは 69 市町村でしたが、平成の大合併により、平成 24 年 4 月現在の市町村数は、14 市 15 町の 29 市町となっています。

図 8 三重県行政地図



気 候

内帯地域中、海岸地帯に位置する津市の気候は、年平均気温 15.9℃（平年値：1981年～2010年の30年間の平均値、以下同じ）年平均湿度 69%と比較的温暖で過ごしやすいところです。

これに対し、内帯地域の西側、布引山地等に囲まれた伊賀盆地にある伊賀市の年平均気温は、14.2℃と県内で気温を観測している観測所のなかでは最も低く、夏冬や朝夕の温度較差が大きい内陸型の気候の特徴を示しています。

外帯地域東側の海岸地帯は、黒潮の影響で温暖な地域が広がっており、その南側、熊野灘に面した尾鷲市の気候は、年平均気温 16.1℃と四季を通じて暖かい海洋型の気候となっています。又、年平均降水量は 3848.8mm と、全国でも有数の多雨地帯となっています。

図9 年平均気温(℃)・降水量(mm)

各観測所の年降水量(mm)・年平均気温(℃)

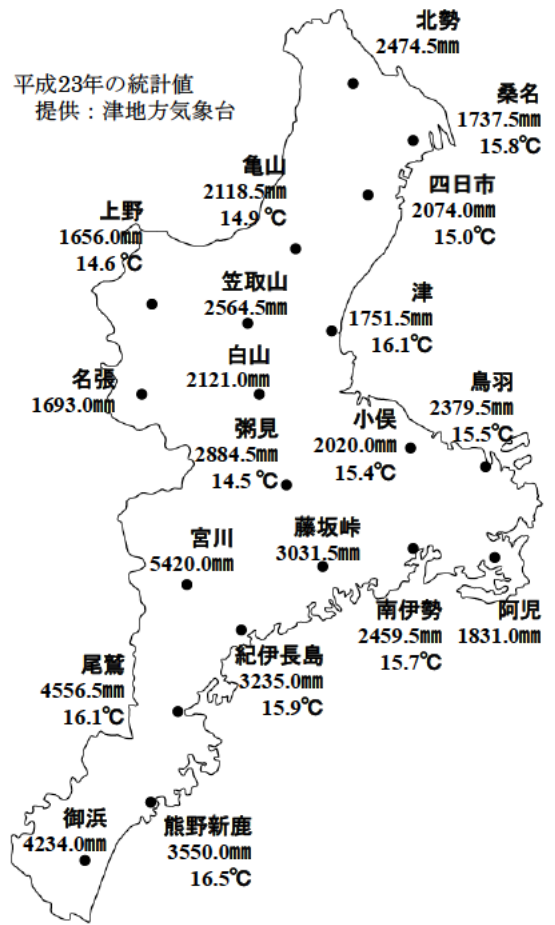
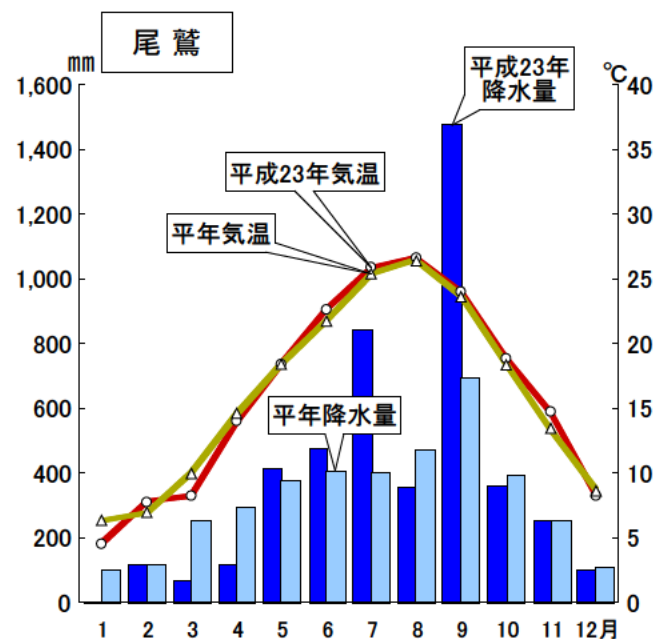
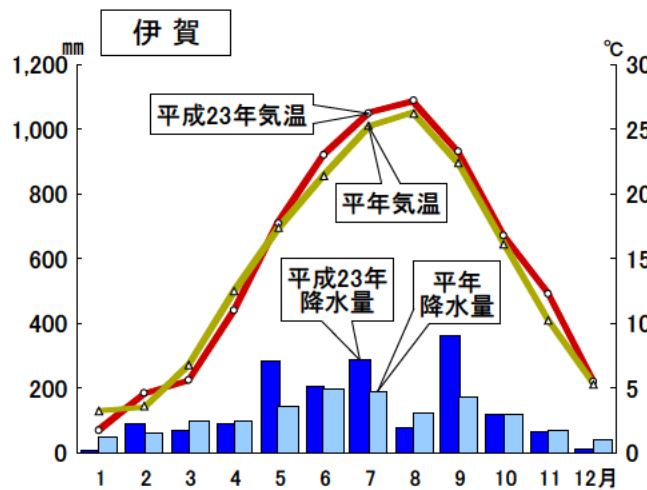
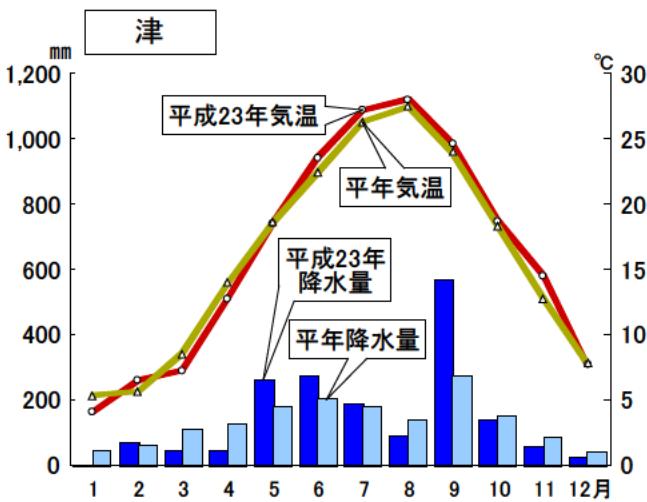


図10 気温・降水量の月変化図



資料 津地方気象台

事業所

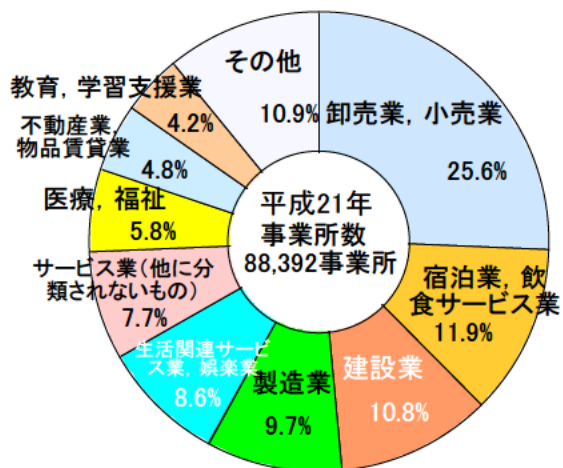
事業所数、従業者数については、これまで「事業所・企業統計調査」によるデータを使ってきましたが、平成21年度から新たに「経済センサス-基礎調査」(5年に一度)が実施されています。これらの2つの統計調査では、調査方法に若干違いがあるため、ここではデータの時系列推移は掲載しません。参考として過去データを必要とされる方は、統計課ホームページ「みえDataBox」にある「事業所・企業統計調査」を参照してください。

事業所数及び従業者数

平成21年7月1日の事業所数(経済センサス-基礎調査)は8万8,392事業所でした。

また、従業者数は89万5,637人で男女別にみると、男子が50万2,979人(構成比56.2%)、女子が39万2,082人(同43.8%)となっています。

図12 産業大分類別事業所数



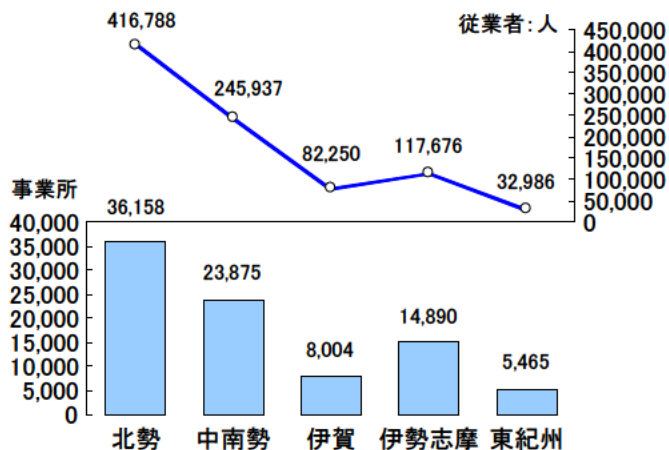
資料 総務省「経済センサス-基礎調査」

産業別従業者数

平成21年の従業者数を産業大分類別にみると、製造業が21万2,338人(構成比23.7%)で最も多く、次いで卸売業、小売業が16万7,600人(同18.7%)、医療、福祉が8万9,506人(同10.0%)、宿泊業、飲食サービス業が7万6,762人(同8.6%)などとなっています。

図11 事業所数、従業者数

平成21年



※中南勢は津市・松阪市・多気郡

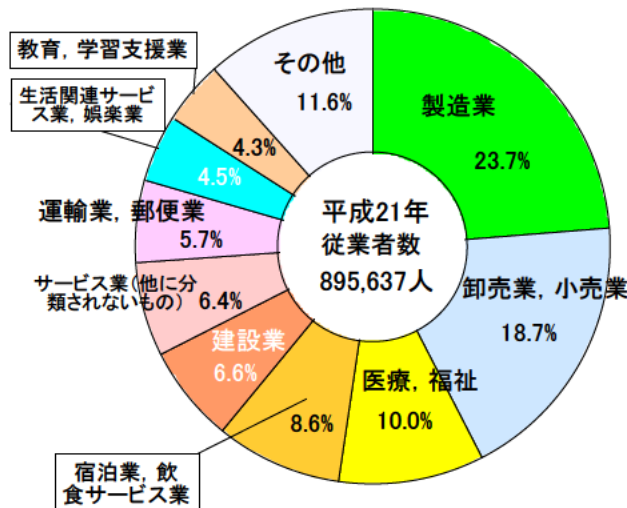
伊勢志摩は伊勢市・鳥羽市・志摩市・度会郡

資料 総務省「経済センサス-基礎調査」

産業別事業所数

平成21年の事業所数を産業大分類別にみると、卸売業、小売業が2万2,653事業所(構成比25.6%)で最も多く、次いで宿泊業、飲食サービス業が1万480事業所(同11.9%)、建設業が9,552事業所(同10.8%)、製造業が8,614事業所(同9.7%)などとなっています。

図13 産業大分類別従業者数



資料 総務省「経済センサス-基礎調査」

農林水産業

農家数

平成22年2月1日現在(2010年世界農林業センサス)の総農家数は5万2,355戸で、前回調査の平成17年(2005年農林業センサス)に比べ7,342戸(12.3%)減少しました。総農家数を自給的農家と販売農家の別にみると、自給的農家は1万9,390戸、販売農家が3万2,965戸で、前年に比べ自給的農家が456戸(2.3%)、販売農家は6,886戸(17.3%)減少しています。

販売農家を主副業別にみると、主業農家が3,218戸(構成比9.8%)、準主業農家が7,797戸(同23.7%)、副業的農家が2万1,950戸(同66.6%)となっています。

図14 総農家数の推移

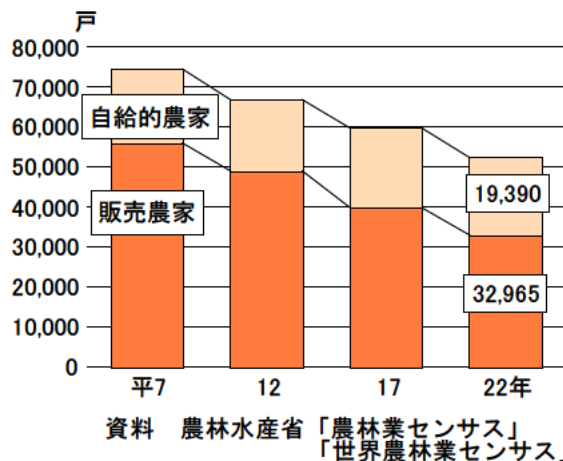
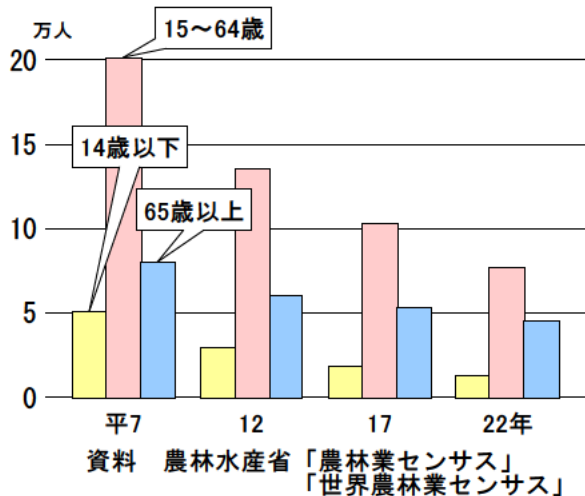


図15 農家人口の推移(販売農家)



農家人口(販売農家)

平成22年2月1日現在(2010年世界農林業センサス)の農家人口(販売農家)は13万4,284人で、前回調査の平成17年(2005年農林業センサス)に比べ3万9,101人(22.6%)減少しています。

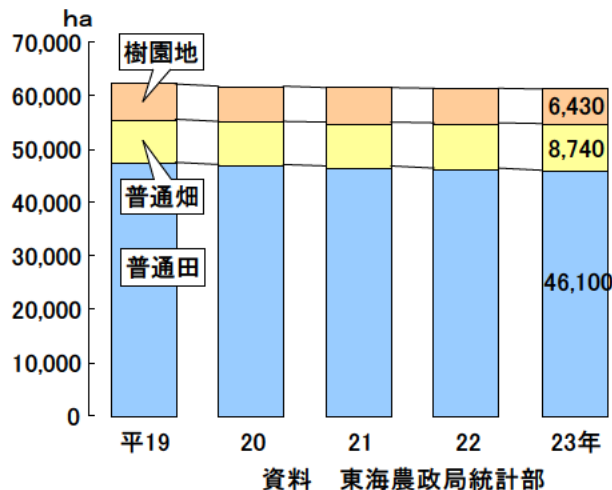
年齢別では、14歳以下が1万2,447人(構成比9.3%)、15~64歳が7万6,069人(同56.6%)、65歳以上が4万5,768人(同34.1%)で、平成17年に比べ、14歳以下が5,730人、15~64歳が2万6,153人、65歳以上が7,218人の減少となっています。

耕地面積

平成23年の耕地面積は6万1,300haで、前年に比べ200ha(0.3%)減少しました。

種類別にみると、普通田が4万6,100ha、普通畑が8,740ha、樹園地が6,430haで、前年に比べ普通田が300ha(0.6%)、樹園地が20ha(0.3%)減少し、普通畑は160ha(1.9%)増加しました。

図16 種類別耕地面積の推移



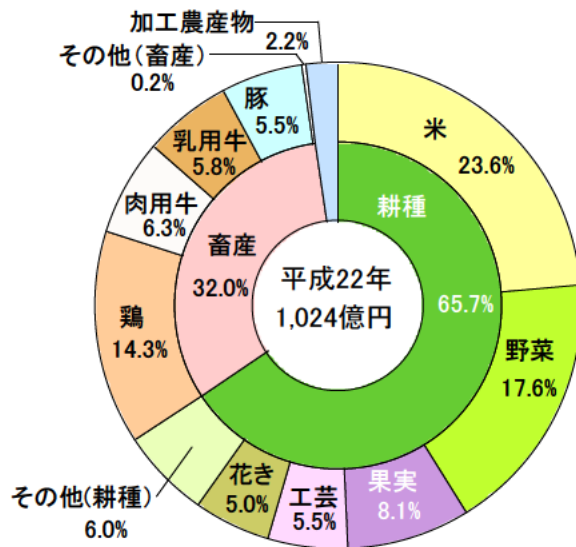
農業産出額

平成 22 年の農業産出額は 1,024 億円で、前年に比べ 34 億円 (3.2%) 減少しました。

種別割合をみると、耕種 65.7%、畜産 32.0%、加工農産物 2.2%となっています。

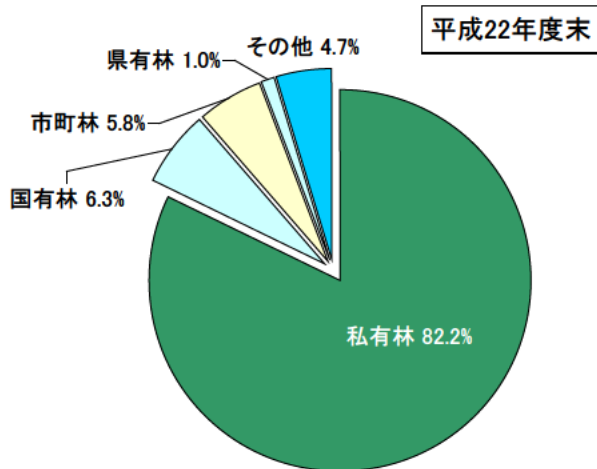
また、品目別では米が最も多く 242 億円 (構成比 23.6%) で、以下、野菜 180 億円 (同 17.6%)、鶏 146 億円 (同 14.3%)、果実 83 億円 (同 8.1%) などとなっています。

図17 農業産出額の品目別構成比



資料 東海農政局統計部

図18 森林保有形態別割合



資料 県森林・林業経営課

林業

平成 23 年 3 月末現在の森林面積は 37 万 2,529ha でした。

保有形態別にみると、私有林が 82.2%と大半を占め、以下、国有林 6.3%、市町林 5.8%、県有林 1.0% などとなっています。

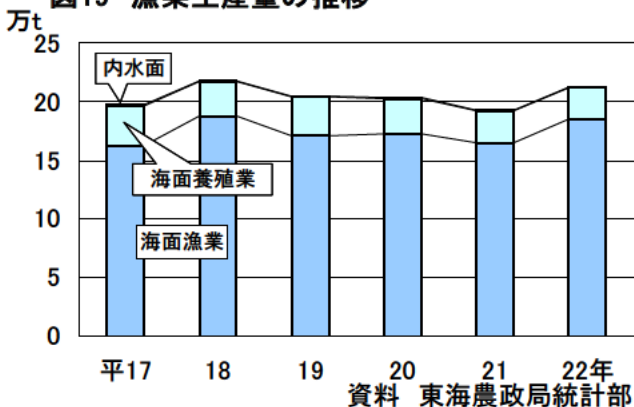
また、民有林のうち人工林面積は 21 万 8,046ha で、天然林面積は 12 万 3,394ha となっています。

漁業

平成 22 年の漁業総生産量のうち、海面漁業は 18 万 5,301t で、前年に比べ 2 万 287t (12.3%) 増加しました。海面養殖業は 2 万 6,505t で、前年に比べ 696t (2.6%) 減少しました。内水面漁業は 336t で前年に比べ 27t (7.4%) 減少、内水面養殖業は 390t で 6t (1.6%) 増加しました。

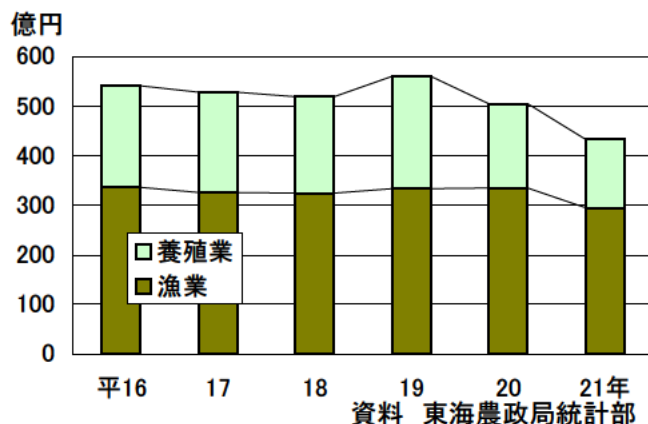
また、海面漁業の 21 年の生産額は 295 億 400 万円で、前年に比べ 39 億 2,400 万円 (11.7%) 減少しました。海面養殖業の生産額は 137 億 4,400 万円で、前年に比べ 32 億 5,000 万円 (19.1%) 減少しました。

図19 漁業生産量の推移



資料 東海農政局統計部

図20 漁業生産額(海面)の推移



資料 東海農政局統計部

鋳工業

鋳工業生産の動き

平成22年の鋳工業生産指数の年平均は102.6（平成17年=100）で、対前年比14.8%の増加となりました。

これを業種別に対前年比で見ますと、一般機械工業35.1%、電子部品・デバイス工業32.1%、電気機械工業25%、情報通信機械工業24%、ゴム製品工業20.6%、家具工業20.5%、その他製品工業20%、鉄鋼業18.9%、窯業・土石製品工業14.6%、化学工業9.9%、非鉄金属工業8.1%、鋳業6.9%、金属製品工業6.3%、パルプ・紙・紙加工品工業4.5%、木材・木製品工業4.3%、プラスチック製品工業2.2%、食料品工業1.7%、繊維工業0.4%、とそれぞれ上昇しました。一方、石油・石炭製品工業△1.5%、電力・ガス事業△3.8%、輸送機械工業△4.8%、とそれぞれ低下しました。

図22 鋳工業生産者製品在庫指数

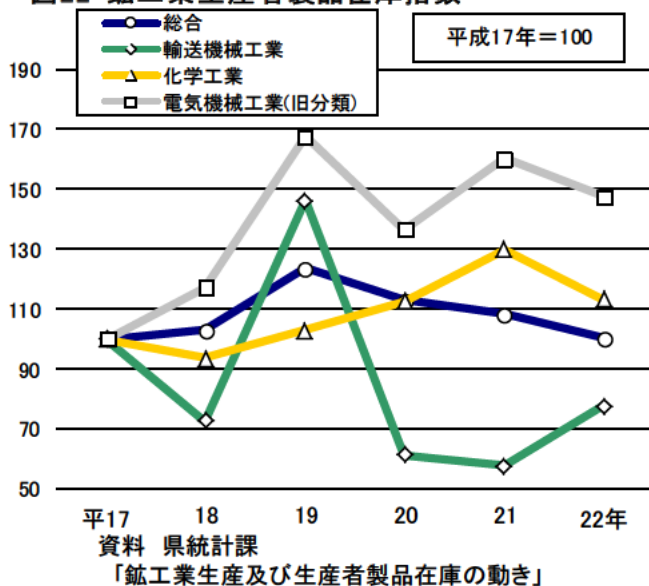
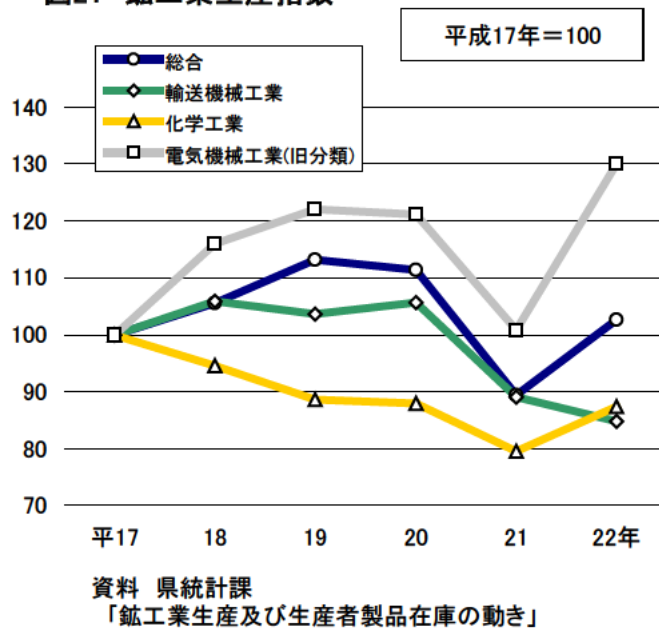


図21 鋳工業生産指数



また、平成22年鋳工業生産者製品在庫指数の年平均は100.3（平成17年=100）で、対前年比7.5%の低下となりました。

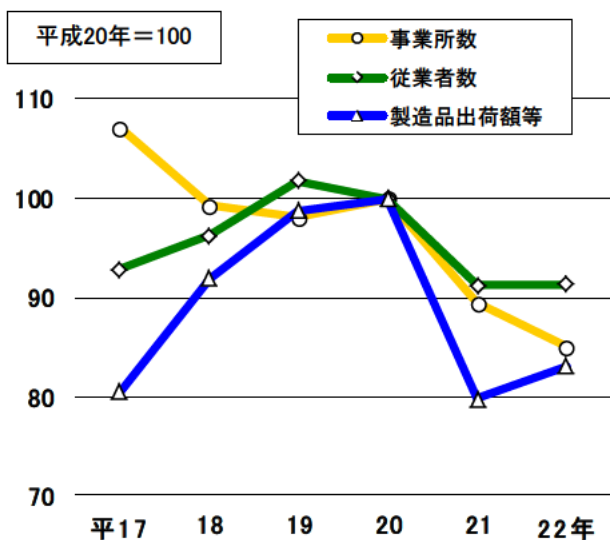
これを業種別に対前年比で見ますと、輸送機械工業35.2%、ゴム製品工業19.4%、鉄鋼業5.1%、非鉄金属工業1.7%、プラスチック製品工業0.5%とそれぞれ上昇しました。一方、家具工業△4.6%、電気機械工業（旧分類）△7.8%、パルプ・紙・紙加工品工業△8.9%、木材・木製品工業△10%、石油・石炭製品工業△12.1%、化学工業△12.9%、繊維工業△12.9%、窯業・土石製品工業△13.2%、その他製品工業△14.3%、食料品工業△17.1%、鋳業△24.3%、金属製品工業△24.8%、一般機械工業△26.4%とそれぞれ低下しました。

平成22年工業統計調査結果

(1) 概況

平成22年12月31日現在の事業所数は3,983事業所、従業者数は19万185人、製造品出荷額等は9兆7,647億円となっています。前年と比べると、事業所数は205事業所（4.9%）減少、従業者数171人（0.1%）増加、製造品出荷額等は3,901億円（4.2%）増加しました。

図23 事業所数、従業者数、製造品出荷額等の推移



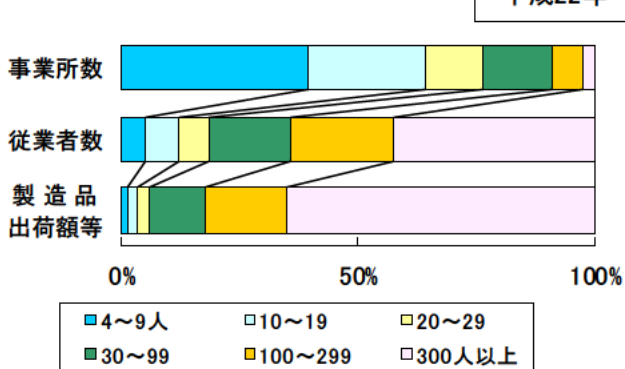
資料 県統計課「三重の工業」

(2) 従業者規模別にみた工業のすがた

平成22年の事業所数、従業者数、製造品出荷額等を従業者規模別で見ると、事業所は従業者規模の小さいものが大半で、従業者4~9人の小規模事業所が構成比で全体の39.4% (1,568事業所) を占めていますが、従業者数では全体の5.0% (9,529人)、製造品出荷額等では同1.1% (1,045億4,146万円) を占めているにすぎません。

これに対して、従業者300人以上の大規模事業所は構成比で2.2% (89事業所) ですが、従業者数では全体の42.3% (8万493人)、製造品出荷額等では同65.3% (6兆3,785億672万円) を占めています。

図24 従業者規模別状況



資料 県統計課「三重の工業」

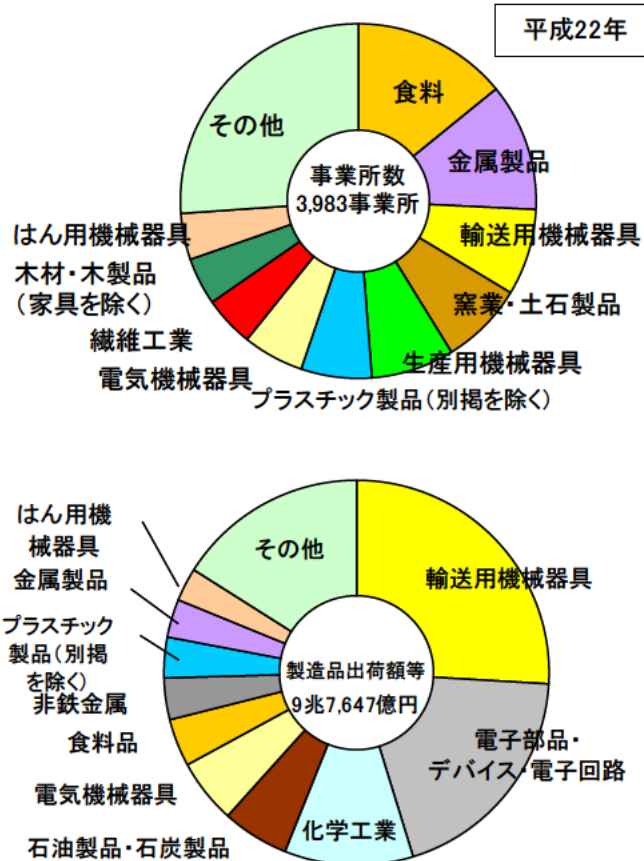
(3) 業種別にみた工業のすがた

事業所数では食料品製造業の占める割合が14.1% (562事業所) で最も高く、次いで金属製品製造業が11.6% (464事業所)、輸送用機械器具製造業が7.9% (314事業所) などとなっています。

従業者数では、輸送用機械器具製造業20.1% (3万8,261人)、電子部品・デバイス・電子回路製造業10.5% (1万9,931人)、食料品製造業9.0% (1万7,078人) などとなっています。

製造品出荷額等では、輸送用機械器具製造業が25.9% (2兆5,288億円) と最も高く、次いで電子部品・デバイス・電子回路製造業が19.3% (1兆8,865億円)、化学工業10.8% (1兆505億円) などとなっています。

図25 業種別事業所数・製造品出荷額等



資料 県統計課「三重の工業」

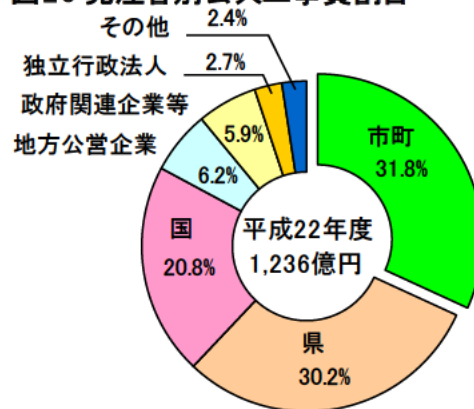
建設・住宅

建設

平成22年度の公共工事の件数は2,160件で、前年度に比べ843件(28.1%)減少しました。契約額は、1,236億円で前年度に比べ239.65億円(16.2%)減少しました。

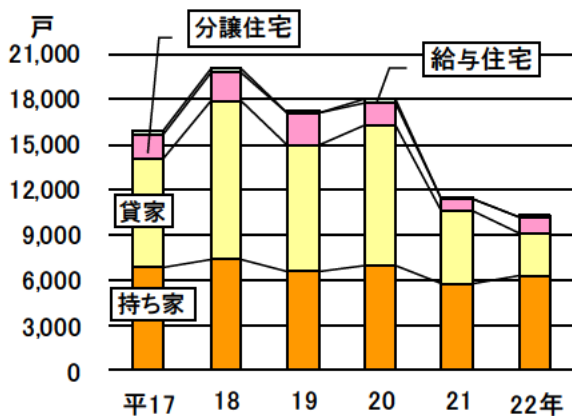
発注者別の契約額割合で見ると、市町が31.8%(394億円)、県30.2%(374億円)、国20.8%(257億円)、地方公営企業6.2%(76億円)、政府関連企業等5.9%(73億円)、独立行政法人2.7%(33億円)などとなっています。

図26 発注者別公共工事費割合



資料 国土交通省「建設工事受注動態統計調査報告」

図27 利用関係別着工新設住宅の推移



資料 国土交通省「建築統計年報」

住宅着工

平成22年中に着工された新設住宅は1万208戸で、前年に比べ1,212戸(10.6%)減少しました。

利用関係別にみると、持ち家が6,341戸(構成比62.1%)、貸家2,807戸(同27.5%)、分譲住宅1,028戸(同10.1%)、給与住宅32戸(同0.3%)となっています。

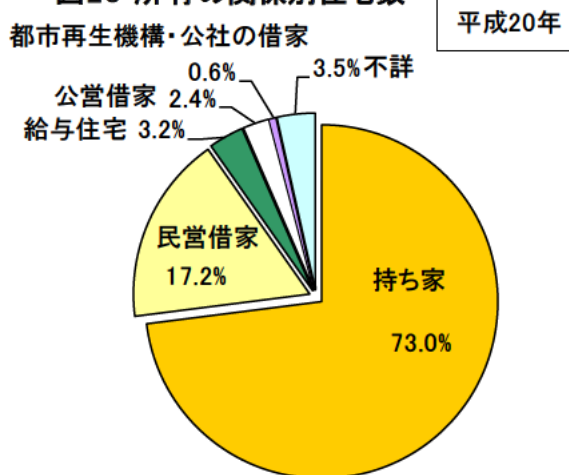
また、資金関係別にみると、民間資金による住宅7,684戸(構成比75.3%)、住宅金融支援機構融資資金による住宅が1,788戸(同17.5%)などとなっています。

住宅

平成20年10月1日現在(住宅・土地統計調査)の住宅総数は79万1,000戸となりました。

また、住宅総数のうち居住世帯のある住宅総数68万900戸について住宅の所有関係別にみると、持ち家49万7,000戸(構成比73.0%)、民営借家11万7,300戸(同17.2%)、給与住宅2万2,000戸(同3.2%)、公営借家1万6,600戸(同2.4%)などとなっています。

図28 所有の関係別住宅数



資料 総務省「住宅・土地統計調査報告」

電気・ガス・水道

電気

平成22年度の発電電力量の総数は279億5,060万kWhで前年度に比べ0.1%増加しました。発電別では、火力が97.8%、水力2.2%となっています。

(風力発電、自家発電等の電力量は含まれていない。)

図29 発電量の推移

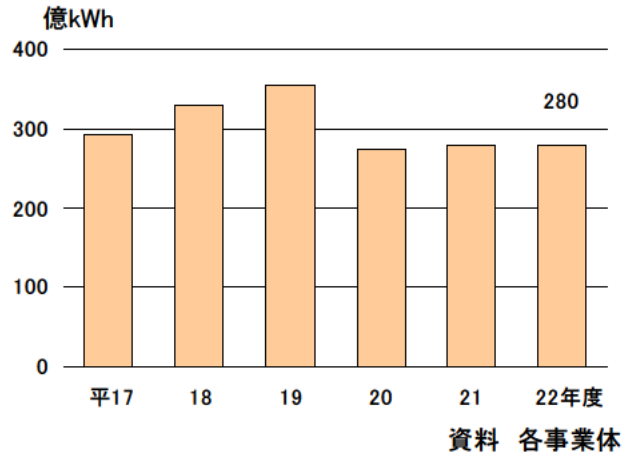
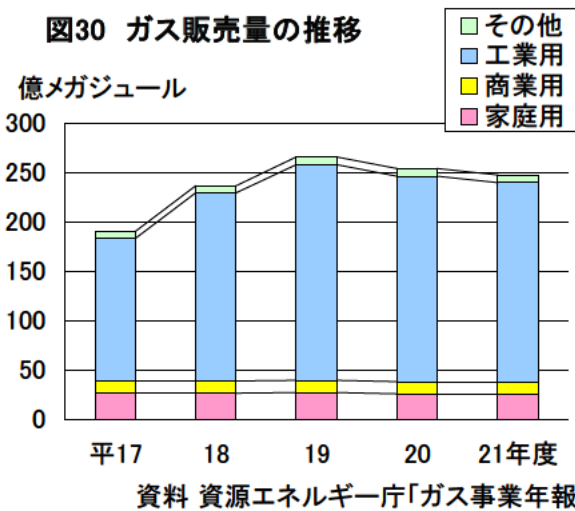


図30 ガス販売量の推移



ガス

平成21年度の都市ガス販売量は247億2,549万メガジュールで、平成20年度に比べ2.6%減少しました。

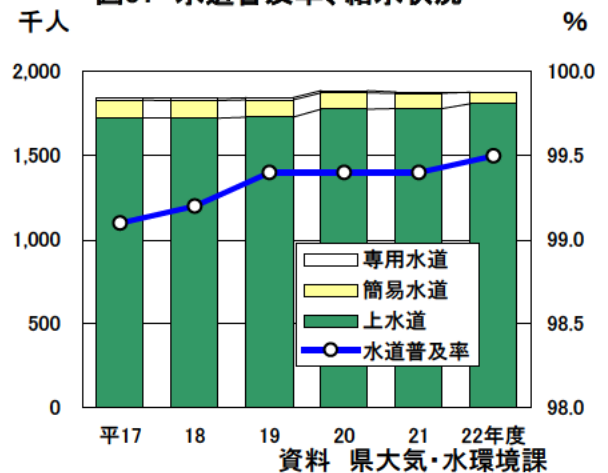
用途別にみると、工業用81.4% (201億4,400万メガジュール)、家庭用10.6% (26億1,599万メガジュール)、商業用4.9% (12億1,120万メガジュール) などとなっています。

水道

平成22年度末現在の水道普及率は99.5%で前年度末に比べ0.1ポイント上昇しました。普及の内訳をみると、上水道95.8%、簡易水道3.7%、専用水道0.1%となっています。

また、上水道の年間給水量をみると、平成22年度は2億5,926万立方メートルで、前年度に比べ1.8%増加しました。なお、1日最大給水量は82万立方メートル、1人1日最大給水量は454リットルとなっています。

図31 水道普及率、給水状況



運輸・通信

道路

平成23年4月1日現在の道路実延長は、2万4,918kmで前年と比べると、87km(0.3%)増加しています。

内訳をみると、国道1,197km(構成比4.8%)、県道2,696km(同10.8%)、市町道2万1,025km(同84.4%)となっています。

道路の改良率をみると、国道は90.0%、県道68.6%、市町道48.3%となっています。

また、道路の舗装率をみると、国道は97.5%、県道95.7%、市町道77.0%となっています。

図32 道路実延長状況

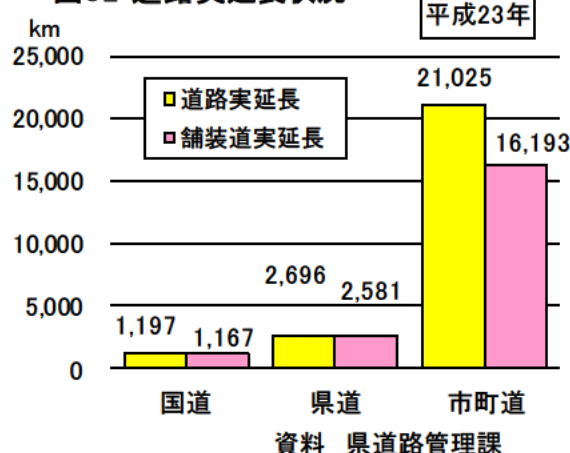
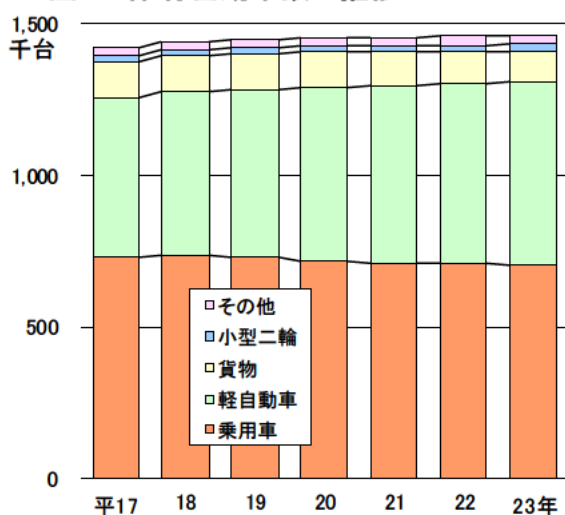


図33 保有自動車数の推移



自動車

平成23年3月31日現在の自動車保有台数は146万2,885台で、前年に比べ2,512台(0.17%)増加しました。

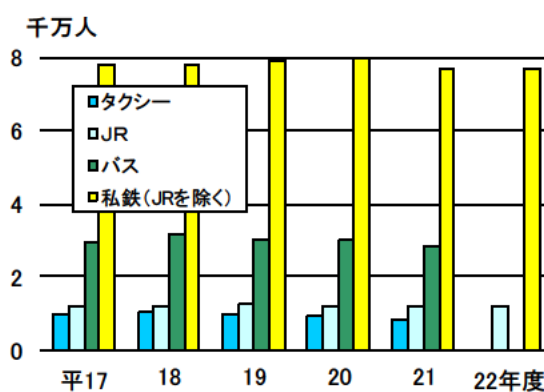
車種別にみると、乗用自動車(普通及び小型)が70万6,020台(構成比48.3%)で最も多く、次いで軽自動車60万2,172台(同41.2%)、貨物自動車10万3,349台(同7.1%)、特種(殊)用途車2万4,563台(同1.7%)などとなっています。

公共交通機関

平成21年度の乗合バス・タクシーの年間利用者数は、乗合バスが2,824万4千人、タクシーが805万人で、前年度と比べると、乗合バスは170万4千人、タクシーも93万7千人減少しています。

平成22年度の私鉄の年間利用者数は、JRが1,186万6,456人、JRを除く私鉄が7,703万9,837人で、前年度に比べると、JRは3万7,476人減少、JRを除く私鉄は20万2,080人増加しています。(私鉄の駅の一部は平成19年中に利用者数のカウント方法が変わっていますので、前後の年の比較には留意が必要です。)

図34 公共交通機関の年間利用者数の推移



商業・貿易・金融

卸売・小売業

平成19年6月1日現在（商業統計調査）の卸売業の事業所数は4,136事業所、従業者数は3万2,446人、年間商品販売額は2兆79億円となっています。前回調査の平成16年に比べ、事業所数は243事業所（5.5%）の減少、従業者数は1,233人（3.7%）の減少、年間商品販売額は49億円（0.2%）の増加となりました。

一方、小売業の事業所数は、1万7,466事業所、従業者数が11万2,723人、年間商品販売額は1兆9,325億円となっており、前回調査時と比べると事業所数は1,420事業所（7.5%）の減少、従業者数は326人（0.3%）の減少、年間商品販売額は917億円（5.0%）の増加となっています。

図35 卸売業の推移

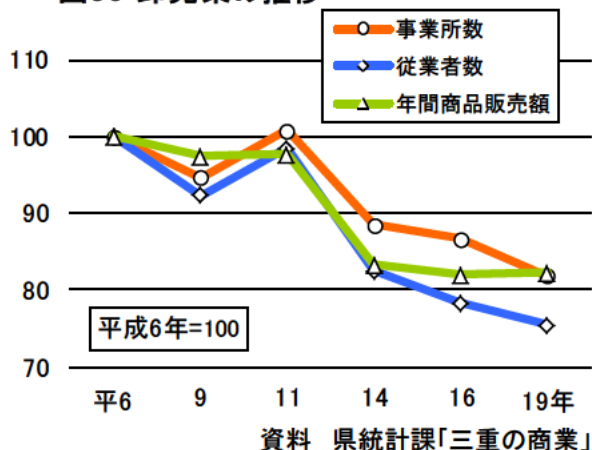
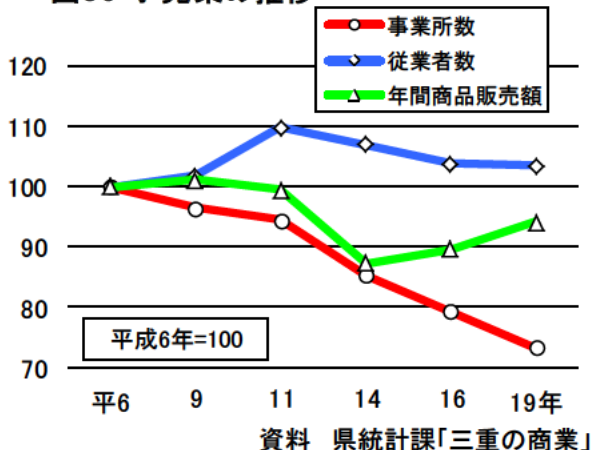


図36 小売業の推移

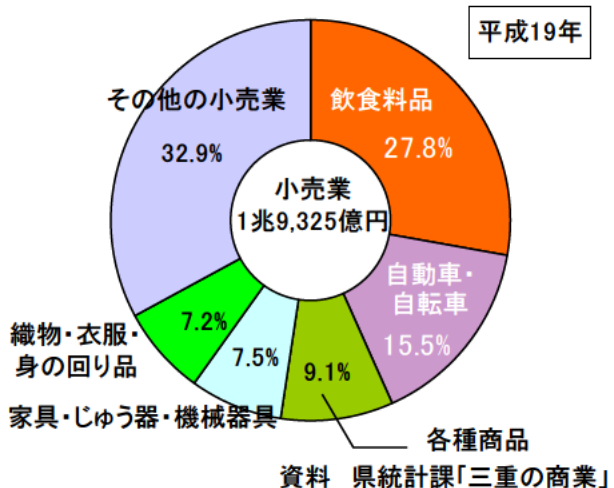
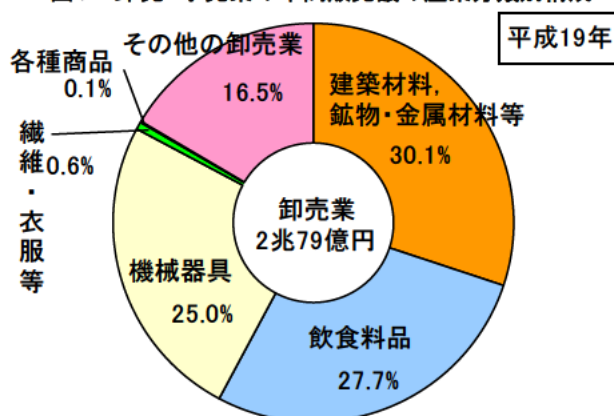


業種別年間商品販売額

年間商品販売額を業種別にみると、卸売業は建築材料、鉱物・金属材料等卸売業6,043億円で最も多く、卸売業年間商品販売額の30.1%を占めており、以下、飲食料品卸売業5,558億円（構成比27.7%）、機械器具卸売業5,022億円（同25.0%）と続いています。

小売業は、飲食料品小売業が5,371億円で小売業年間商品販売額の27.8%を占めており、次いで自動車・自転車小売業2,992億円（構成比15.5%）などとなっています。

図37 卸売・小売業の年間販売額の産業分類別構成



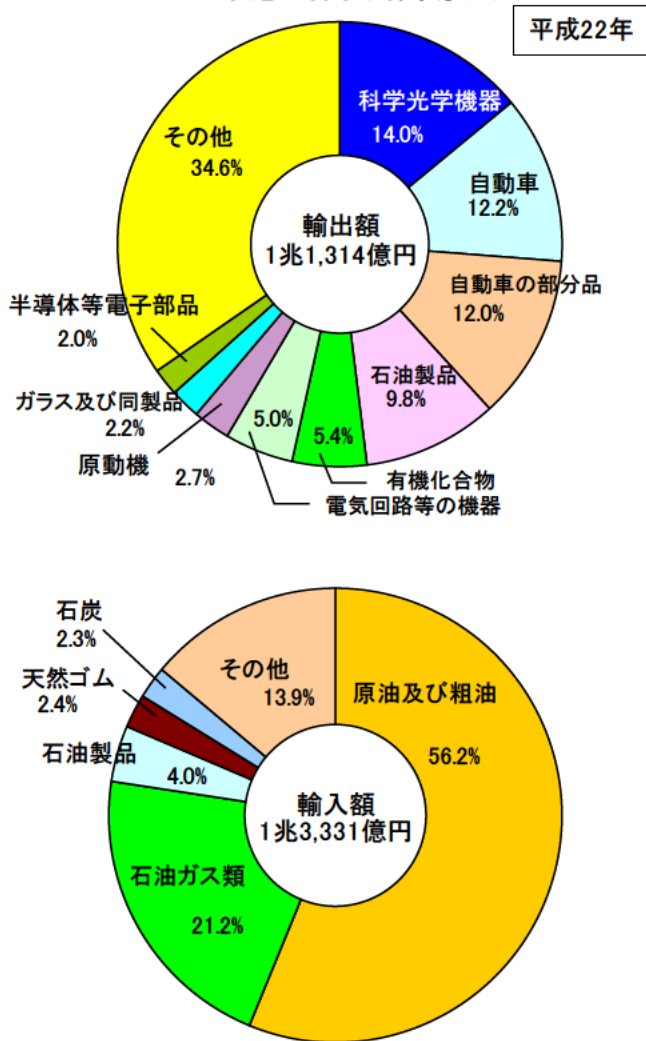
貿易

輸出・輸入ともに本県の大半を占める四日市港の平成22年の貿易状況をみると、輸出額は1兆1,314億円で前年に比べ1,290億円(12.9%)、輸入額は1兆3,331億円で前年に比べ2,216億円(19.9%)増加しました。

品目別でみると、輸出は科学光学機器が1,588億円(構成比14.0%)で最も多く、次いで自動車1,382億円(同12.2%)、自動車の部品品が1,361億円(同12.0%)の順となっています。

輸入は原油及び粗油が7,490億円(構成比56.2%)で最も多く、次いで石油ガス類が2,821億円(構成比21.2%)、石油製品が539億円(同4.0%)の順となっています。

図38 四日市港の品目別貿易状況



資料 名古屋税関「貿易年表」

金融

平成23年3月31日現在の預貯金残高(郵便貯金を除く)は、10兆6,484億円となり、前年に比べ2,163億円(2.1%)増加しました。貸出残高は、4兆8,065億円となり前年に比べ338億円(0.7%)減少しました。

平成23年の企業倒産件数は、105件となり前年に比べ29件(21.6%)減少しました。負債総額は312億円(101.4%)増え、619億円と倍増しました。

図39 預貯金・貸出残高の推移

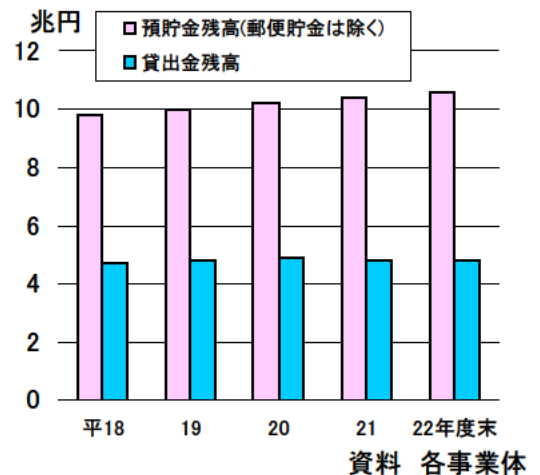
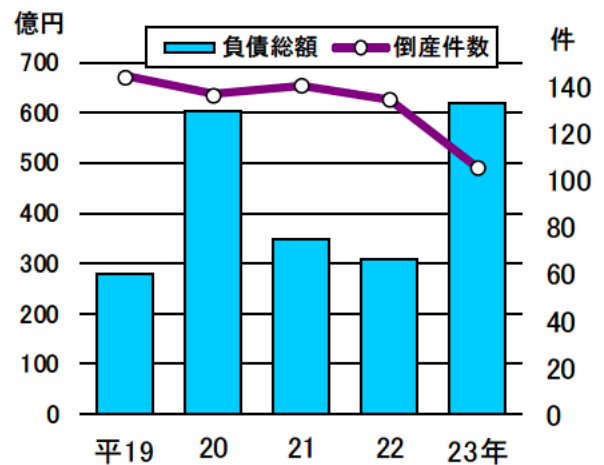


図40 企業倒産状況の推移



資料 (株)東京商工リサーチ津支店

物価・家計

1ヶ月間の収入と支出

平成22年の津市の勤労者世帯1世帯当たり年平均1ヶ月間の実収入の内訳をみると世帯主の定期収入と賞与等を合わせた収入が80.0%（37万8,105円）を占めています。

また、消費支出を費目別にみると食料費の占める割合が最も大きく21.5%（6万9,301円）を占めており、次いで交通・通信費14.9%（4万7,759円）、教養娯楽費10.3%（3万3,049円）などとなっています。

※二人以上の世帯（農林漁家世帯を含む）の値。

図41 1世帯当たり年平均1ヶ月間の収入と支出

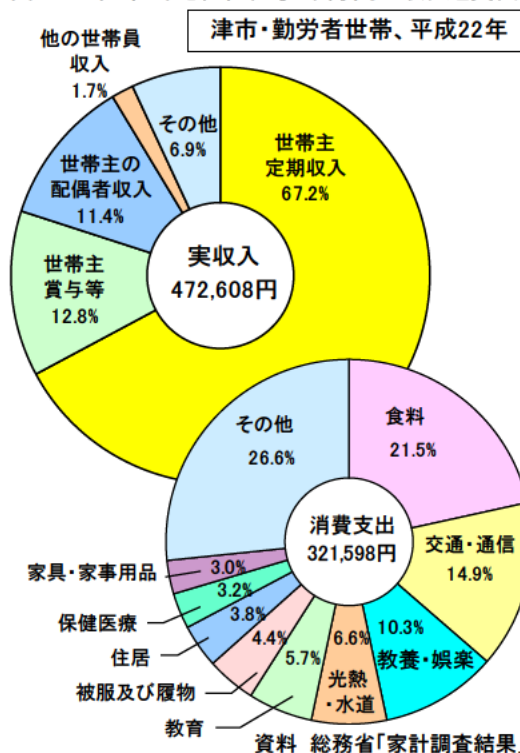
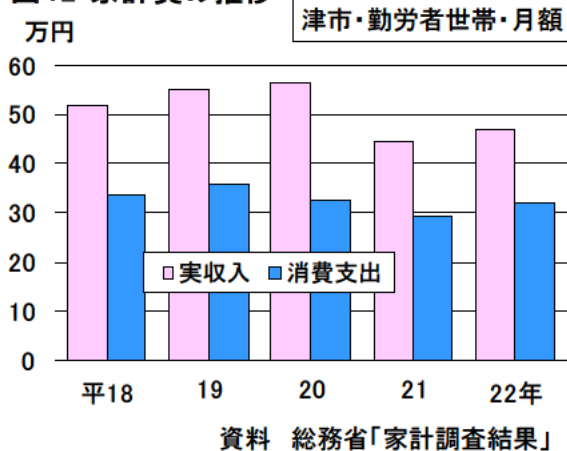


図42 家計費の推移



家計

平成22年の津市の勤労者世帯1世帯当たり1ヶ月平均の実収入は、47万2,608円で、前年に比べ2万7,914円（6.3%）増加しました。

また、1世帯当たり1ヶ月平均の消費支出は32万1,598円で、前年に比べ2万9,027円（9.9%）増加しました。

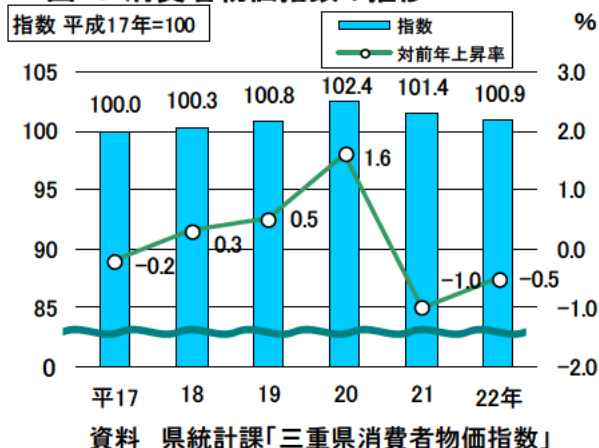
※二人以上の世帯（農林漁家世帯を含む）の値。

消費者物価

平成22年の三重県の消費者物価指数は、平成17年を100とした総合指数で100.9となりました。

総合指数の対前年上昇率の推移をみると、平成18年は0.3%、平成19年は0.5%、平成20年は1.6%と上昇が続きましたが、平成21年は△1.0%、平成22年は△0.5%と下落が続いています。

図43 消費者物価指数の推移



労働

賃金

平成22年の常用労働者の1人平均月間現金給与総額（事業所規模30人以上の事業所）は33万2,702円でした。このうち定期給与は27万2,352円、特別給与は6万350円となっています。

現金給与総額を産業別にみると、電気・ガス・熱供給・水道業が56万2,661円で最も高く、次いで金融業、保険業の48万7,867円、学術研究、専門・技術サービス業の43万6,052円の順となっており、宿泊業、飲食サービス業が12万7,048円で最も低くなっています。

図44 産業別1人平均月間現金給与総額(平成22年)

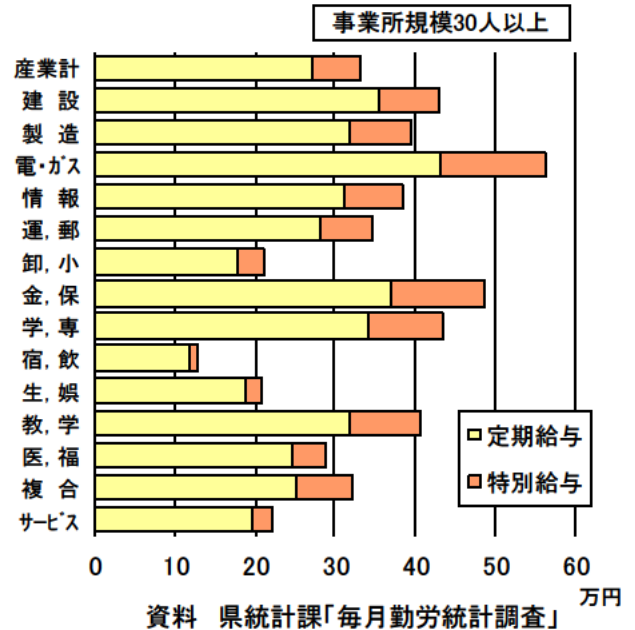
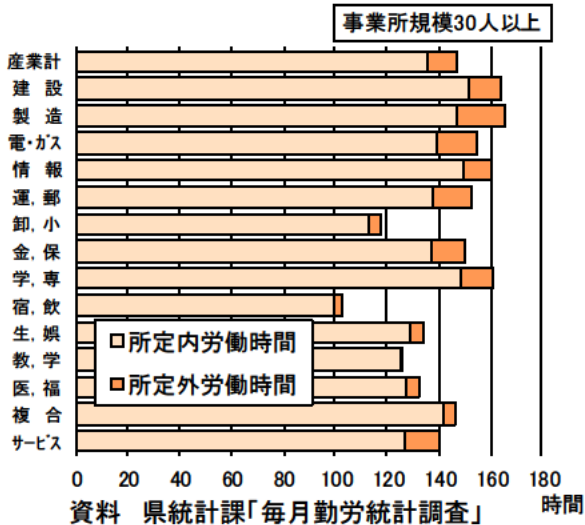


図45 産業別1人平均月間総実労働時間(平成22年)



労働時間数

平成22年の常用労働者の1人平均月間総実労働時間数（事業所規模30人以上の事業所）は146.9時間でした。

このうち、所定内労働時間数は135.1時間、所定外労働時間は11.8時間となっています。

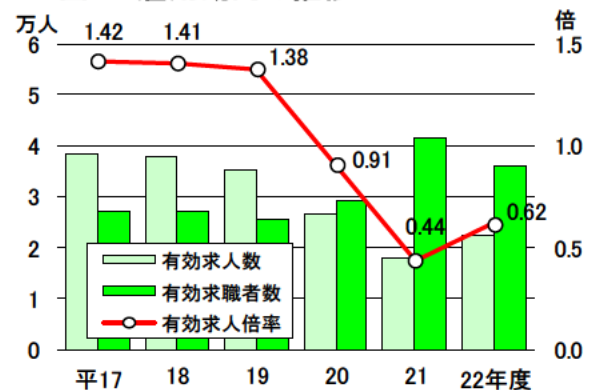
総実労働時間数を産業別にみると、製造業が165.5時間で最も長く、次いで建設業の164.3時間、学術研究、専門・技術サービス業の161.2時間の順になっており、宿泊業、飲食サービス業が102.8時間で最も短くなっています。

雇用

平成22年度の年度平均月間有効求人数は2万2,313人で、前年度に比べ4,234人(23.4%)増加し、年度平均月間有効求職者数は3万5,983人で、5,540人(13.3%)減少しました。

有効求人数を有効求職者数で割った有効求人倍率は0.62倍で、前年度に比べ0.18ポイント上昇しました。

図46 雇用動向の推移



注) 新規学校卒業者は除き、パートタイムは含む

資料 三重労働局職業安定部「労働市場年報」

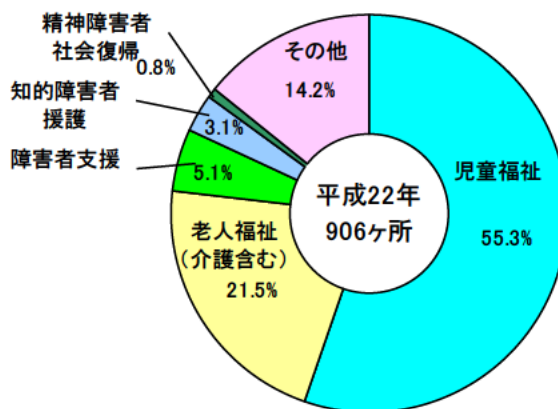
社会保障

社会福祉施設

平成22年10月1日現在の社会福祉施設は906ヶ所で、運営主体別にみると、公営364ヶ所（構成比40.2%）、私営542ヶ所（同59.8%）となっています。

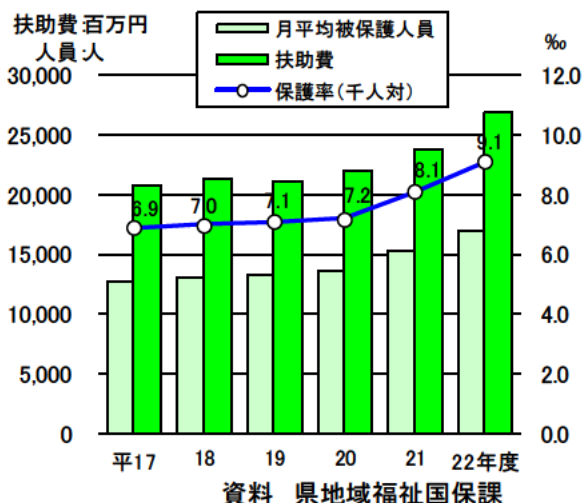
また、種類別でみると児童福祉施設501ヶ所（構成比55.3%）、老人福祉施設（介護老人福祉施設含む）195ヶ所（同21.5%）、障害者支援施設等46ヶ所（同5.1%）、知的障害者援護施設28ヶ所（同3.1%）、精神障害者社会復帰施設7ヶ所（同0.8%）などとなっています。

図47 社会福祉施設数



資料 厚生労働省、県医療企画課、長寿介護課

図48 生活保護の動向



生活保護

平成22年度の月平均生活保護被保護人員は1万6,923人で、前年度に比べ1,683人（11.0%）増加しました。人口千人当たりの保護率は9.1%となっています。

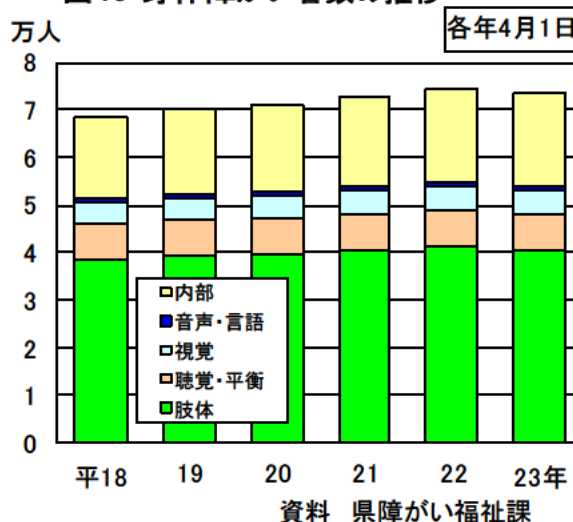
また、扶助費支出総額は268億7,931万円で、前年度に比べ31億1,256万円（13.1%）増加しました。扶助費を費目別にみると、医療扶助が144億5,585万円で最も多く、53.8%を占めています。

身体障がい者

平成23年4月1日現在の身体障害者手帳交付者数は7万3,559人で、前年に比べ990人減少しています。

障がい別にみると、肢体不自由が4万737人で全体の55.4%を占め、次いで、内部障がい1万9,619人（26.7%）、聴覚・平衡機能障がい7,581人（10.3%）、視覚障がい4,761人（6.5%）、音声・言語機能障がい861人（1.2%）となっています。

図49 身体障がい者数の推移

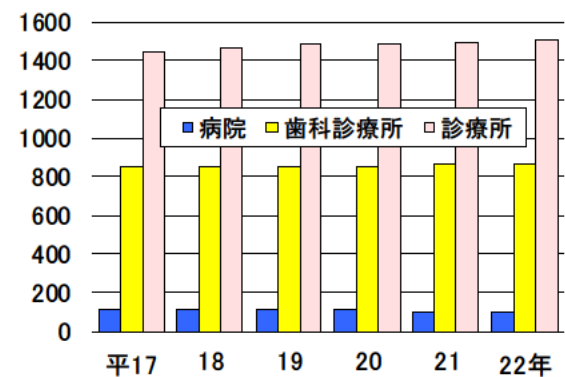


健康・医療・環境

医療施設数

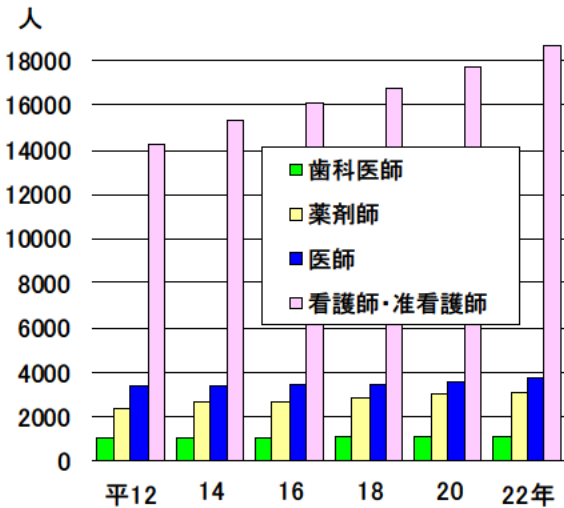
平成22年10月1日現在の医療施設数は、病院102施設、一般診療所1,506施設、歯科診療所860施設で、前年に比べ病院は4施設減少、一般診療所8施設増加、歯科診療所は3施設減少しました。

図50 医療施設数の推移



資料 県医療企画課

図51 医療関係者数の推移



資料 県医療企画課

医療関係者

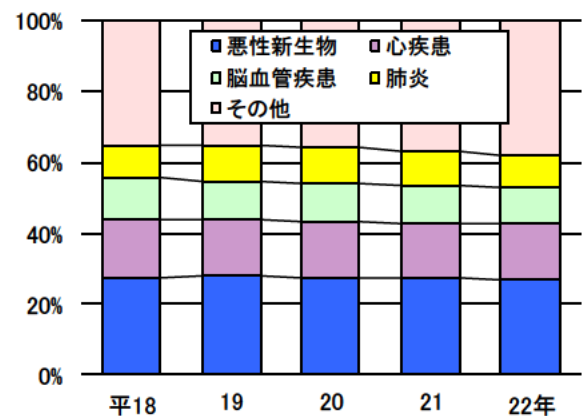
平成22年12月31日現在の医療関係者数は、医師3,685人、歯科医師1,118人、薬剤師3,094人、就業看護師・准看護師1万8,879人で、前回調査の平成20年に比べ、医師が105人増(+2.9%)、歯科医師が18人減(-1.6%)、薬剤師が130人増(+4.4%)、就業看護師・准看護師が935人増(+5.3%)となっています。

死亡要因

平成22年中の死亡者数は1万8,690人で、前年に比べ1,100人増加しました。

主要死因別の割合をみると、悪性新生物が5,058人(構成比27.1%)で最も多く、次いで心疾患2,890人(同15.5%)脳血管疾患1,902人(同10.2%)などとなっています。

図52 主要死因別死亡割合の推移



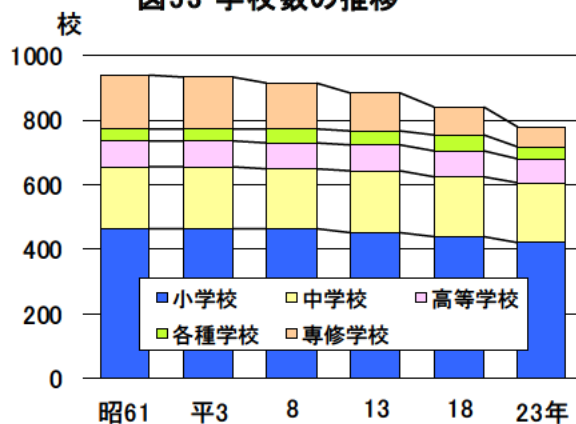
資料 県医療企画課

教育・文化

学校数

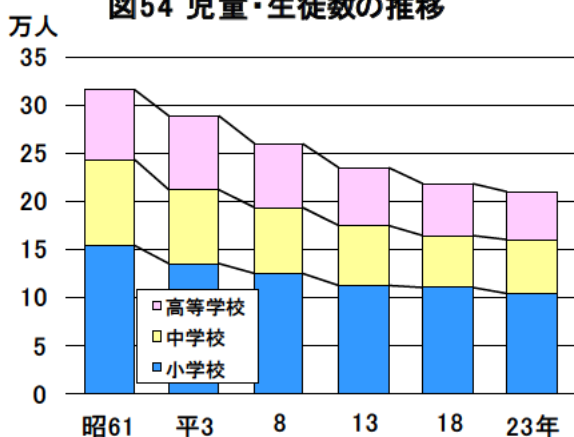
平成23年5月1日現在の学校数は、幼稚園259園、小学校421校、中学校184校、高等学校73校、大学8校、短期大学4校、高等専門学校3校、特別支援学校17校、専修学校42校、各種学校61校で、前年と比べると、小学校2校、高等学校4校、専修学校2校、各種学校2校がそれぞれ減少しました。

図53 学校数の推移



資料 県統計課「学校基本調査結果」

図54 児童・生徒数の推移



資料 県統計課「学校基本調査結果」

児童・生徒数

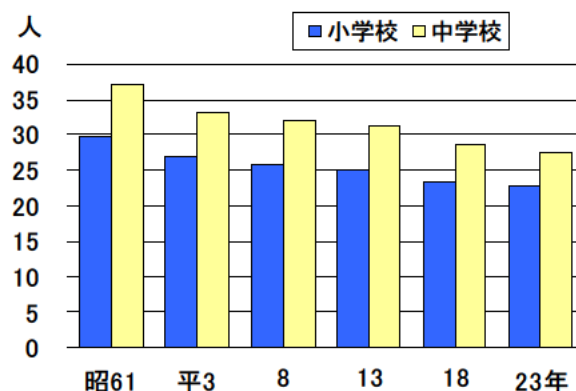
平成23年5月1日現在の児童・生徒数は、小学校10万4,557人(男5万3,530人、女5万1,027人)、中学校5万4,609人(男2万7,999人、女2万6,610人)、高等学校5万654人(男2万5,622人、女2万5,032人)で、前年に比べ小学校が1,780人(1.7%)減少、中学校が376人(0.7%)増加、高等学校が705人(1.4%)減少しました。

学級数及び1学級当たりの児童・生徒数(小・中)

平成23年5月1日現在の学級数は、小学校4,597学級、中学校1,977学級で、前年度に比べ小学校が27学級(0.6%)減少、中学校は39学級(2.0%)増加しました。

1学級当たりの児童・生徒数は、小学校22.7人、中学校27.6人で、前年度に比べ小学校、中学校とも若干減少しています。

図55 1学級当たりの児童・生徒数



資料 県統計課「学校基本調査結果」

教員数及び教員1人当たりの児童・生徒数 (小・中・高)

平成23年5月1日現在の本務教員数は、小学校7,150人(男2,573人、女4,577人)、中学校4,171人(男2,326人、女1,845人)、高等学校3,840人(男2,600人、女1,240人)で、前年に比べ小学校が3人減少、中学校が48人増加、高等学校が1人減少しました。

教員1人当たりの児童・生徒数は、小学校14.6人、中学校13.1人、高等学校13.2人で、前年に比べ小学校は0.3人、中学校は0.1人、高等学校は0.2人減少しました。

図56 教員1人当たり児童・生徒数

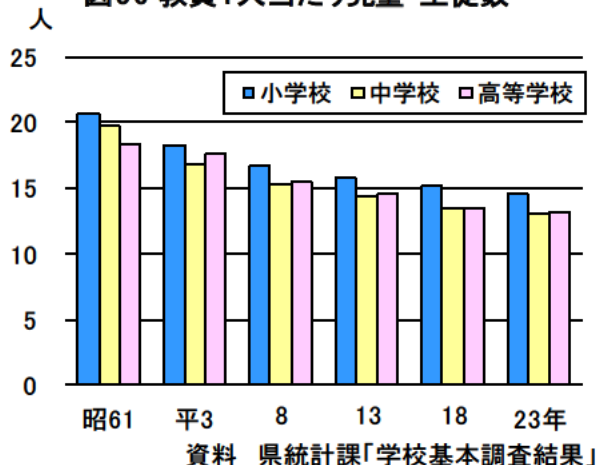
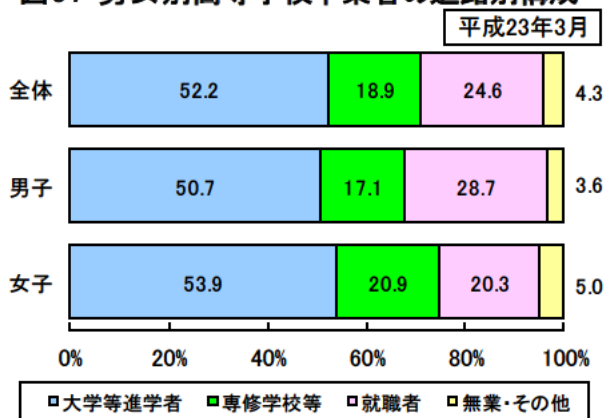


図57 男女別高等学校卒業者の進路別構成



高等学校卒業者の進路状況

平成23年3月の高等学校卒業者総数は1万6,366人で、前年に比べ71人(0.4%)減少しました。

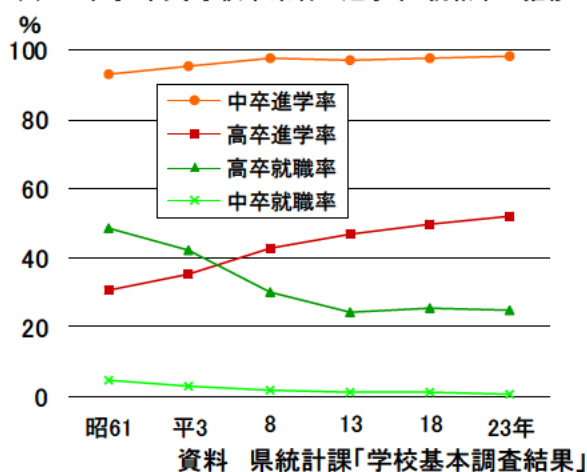
卒業後の進路をみると、就職者24.6%、大学・短期大学等への進学者(就職進学者を含む)52.2%、専修学校等への入学者(就職入学者を含む)18.9%、その他(一時的な仕事に就いた者、無業者、死亡・不明)4.3%となっています。また、就職率(進学者や専修学校等入学者のうち就職している者を含む就職者の割合)は、24.6%で、前年に比べ0.7ポイント上昇しました。

進学率

平成23年3月の中学校卒業者の高等学校等への進学率(就職進学者を含む)は98.5%で、前年に比べ0.1ポイント上昇しました。男女別にみると、男98.2%、女98.8%となっています。

また、高等学校卒業者の大学・短期大学等への進学率(就職進学者を含む)は52.2%で、前年に比べ0.1ポイント上昇しました。男女別にみると、男50.7%、女53.9%となっています。

図58 中学・高等学校卒業者の進学率・就職率の推移



観 光

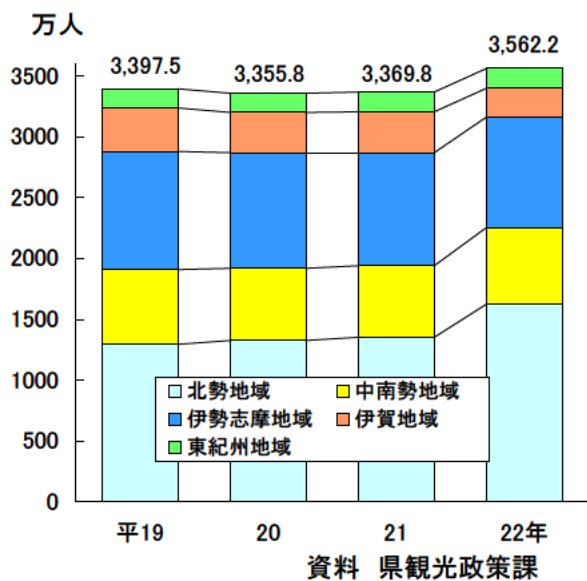
観 光

平成 22 年の観光レクリエーション入込客数（新基準）は、実数で 3,562 万 2 千人と推計され、前年に比べ 192 万 4 千人（5.7%）増加しました。

地域別入込客数をみると、北勢地域、中南勢地域で増加、伊勢志摩地域、伊賀地域、東紀州地域で減少しました。

前年と比較して北勢地域で 270 万 4 千人（20.0%）、中南勢地域で 44 万 9 千人（7.6%）増、伊勢志摩地域で 18 万 6 千人（2.0%）、伊賀地域が 101 万 6 千人（30.1%）、東紀州地域が 2 万 7 千人（1.7%）減となりました。

図59 地域別観光入込客数の推移(新基準)



旅券発行数

平成 22 年に発行した旅券は、5 万 8,347 件で、前年に比べ 5,846 件（11.1%）増加しました。

年齢別割合をみると、20 歳未満が 15.5%、20 歳代が 20.9%、30 歳代が 16.1%、40 歳代が 13.7%、50 歳以上が 33.8%となっています。

図60 男女別旅券発行件数の推移

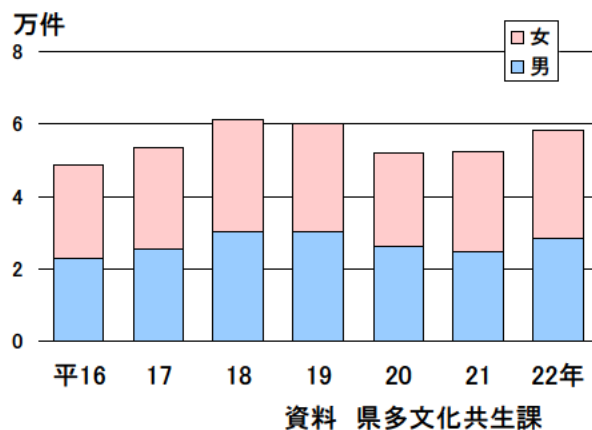
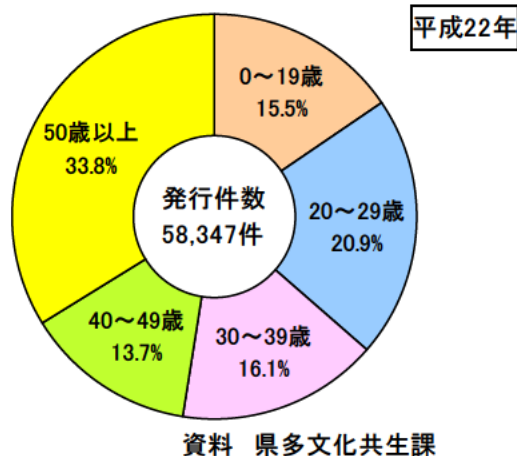


図61 年齢階層別旅券発行数



県民経済計算

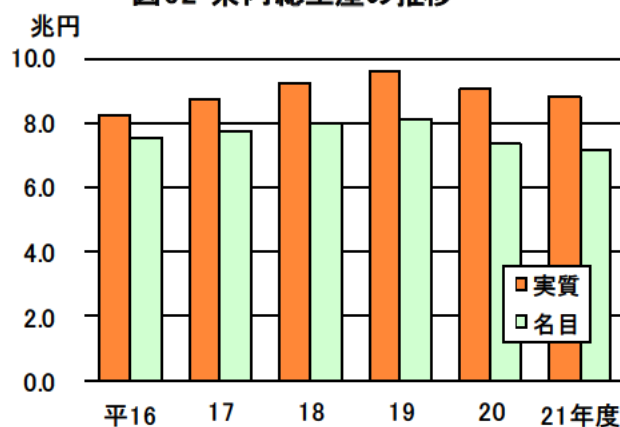
国内総生産と県内総生産

平成21年度の国内総生産（GDP）は名目で474兆402億円、実質で526兆7,353億円となり、対前年度比（経済成長率）は名目で3.7%減、実質は2.4%減となりました。

また、県内総生産は名目で7兆1,553億円、実質で8兆7,826億円となり、対前年度比（経済成長率）は名目で2.8%減、実質で2.7%減となりました。

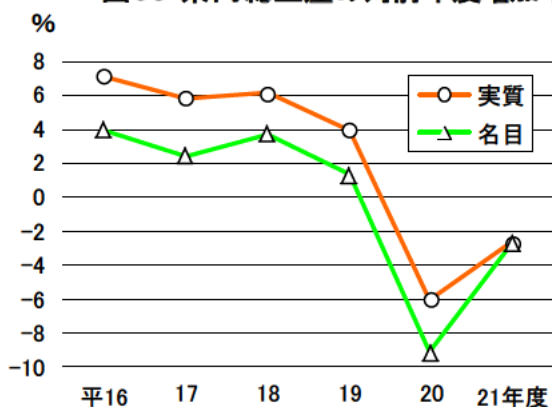
※国・県値は、平成12年基準・93SNAになります。

図62 県内総生産の推移



資料 県統計課「平成21年度 三重県民経済計算結果」

図63 県内総生産の対前年度増加率



資料 県統計課「平成21年度 三重県民経済計算結果」

県内総生産（支出側）

平成21年度の県内総生産（支出側）は名目で7兆1,553億円となり、前年度より2.8%減少しました。

県内総生産（支出側）のうち民間最終消費支出は名目で3兆5,578億円となり、対前年度比は0.9%の減少となりました。

また、総資本形成は名目で1兆5,321億円となり、対前年度比は28.0%減となりました。

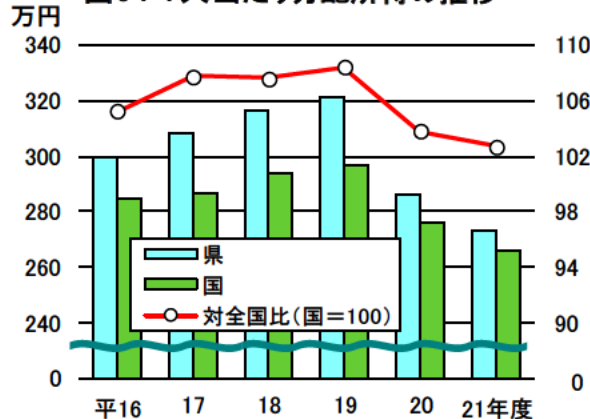
県民所得（分配）

平成21年度の県民所得は5兆1,061億円、対前年度比は4.8%の減少となりました。

県民所得の71.2%を占める県民雇用者報酬は3兆6,381億円、対前年度比は5.1%の減少となりました。

また、1人当たりの県民所得は、273万1千円で前年度より4.5%減少しました。全国を100とした値は102.7となり、前年度より1.1ポイント下降しました。

図64 1人当たり分配所得の推移



資料 県統計課「平成21年度 三重県民経済計算結果」

財 政

歳 入

平成22年度の一般会計歳入決算額は7,246億円で前年度に比べ474億円(6.1%)減少しました。

財源別にみると、県税2,022億円(構成比27.9%)、地方交付税1,451億円(同20.0%)、県債1,480億円(同20.4%)、国庫支出金910億円(同12.6%)などとなっています。

図65 歳入決算額の財源別構成比

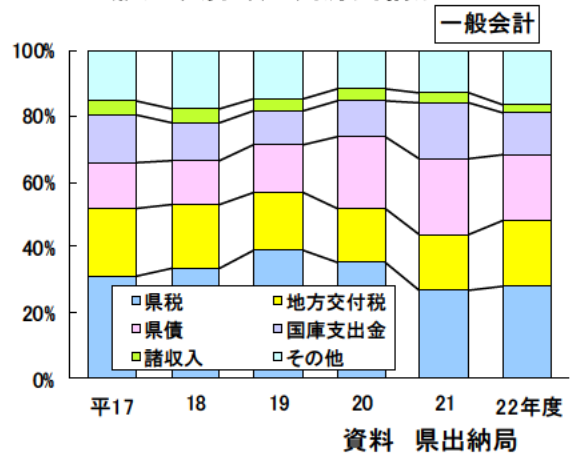
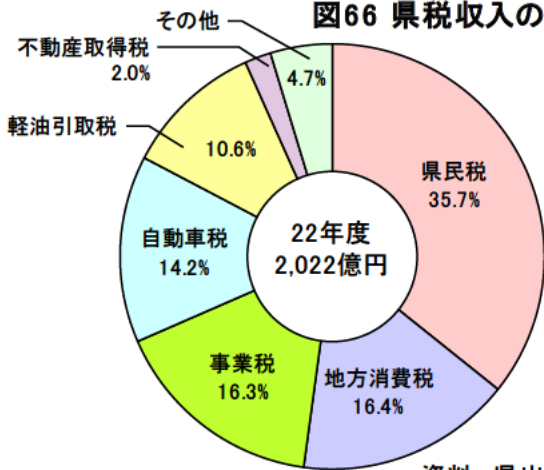


図66 県税収入の構成



県 税

平成22年度の県税収入額は2,022億円で、前年度に比べ73億円(3.5%)減少しました。

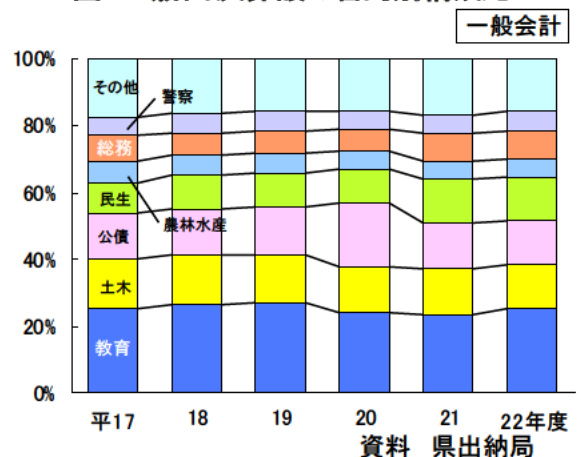
税目別にみると、県民税722億円(構成比35.7%)、地方消費税332億円(同16.4%)、事業税330億円(同16.3%)、自動車税287億円(同14.2%)、軽油引取税215億円(同10.6%)、不動産取得税41億円(同2.0%)などとなっています。

歳 出

平成22年度の一般会計歳出決算額は7,038億円で前年度に比べ508億円(6.7%)減少しました。

目的別にみると、教育費1,754億円(構成比24.9%)、土木費923億円(同13.1%)、公債費950億円(同13.5%)、民生費896億円(同12.7%)、総務費585億円(同8.3%)、警察費398億円(同5.6%)、農林水産業費405億円(同5.8%)などとなっています。

図67 歳出決算額の目的別構成比

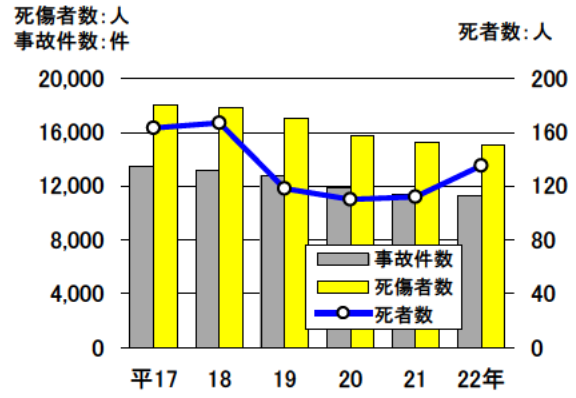


交通事故・犯罪・災害

交通事故

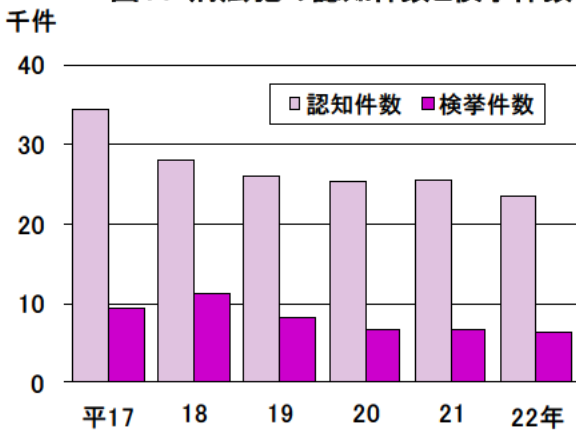
平成 22 年の交通事故（人身事故）は、発生件数 1 万 1,275 件、死傷者数 1 万 5,013 人うち死者数 135 人となり、前年に比べ発生件数が 97 件（0.9%）、死傷者数が 225 人（1.5%）減少し、一方、死者数は 23 人（20.5%）増加しました。

図68 交通事故(人身事故)の動向



資料 県警察本部「三重の交通統計」

図69 刑法犯の認知件数と検挙件数



資料 県警察本部「犯罪統計書」

犯罪

平成 22 年中の刑法犯の認知件数は 2 万 3,425 件、検挙件数 6,480 件で、前年に比べ認知件数は 2,115 件（8.3%）減少、検挙件数は 144 件（2.2%）減少しました。

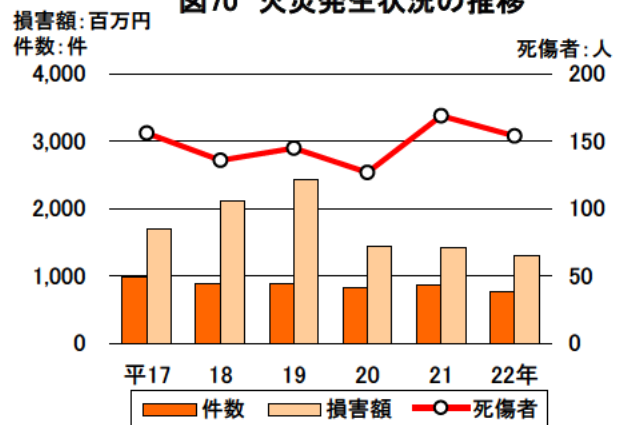
認知件数を罪種別にみると、窃盗犯が 1 万 7,992 件で最も多く 76.8% を占め、以下知能犯 845 件（構成比 3.6%）、粗暴犯 553 件（同 2.4%）などとなっています。

火災

平成 22 年に発生した火災は 771 件で、前年に比べ 92 件（10.7%）減少し、死傷者は 154 人で 15 人（8.9%）減少しました。また、損害額は 12 億 9,884 万円で 1 億 1,968 万円（8.4%）減少しました。

出火件数を火災種別割合で見ると、建物火災 388 件（構成比 50.3%）、車両火災 100 件（同 13.0%）、林野火災 40 件（同 5.2%）などとなっています。

図70 火災発生状況の推移



資料 県消防・保安課